

# 教会のCOVID-19対策

## コロナウイルス時代での教会運営ガイダンス

### まえがき

この資料はマレーシアのクリスチャン向けに書かれたものです。日本の事情とは異なる部分があるかもしれませんが、日本の教会においても役に立てる内容があると思います。

翻訳元の資料はこちらを参照ください：

[http://shinjitsu.org/wp-content/uploads/2020/05/88963\\_Church-Guidance-Final-updated-4th-May-2020-Share.pdf](http://shinjitsu.org/wp-content/uploads/2020/05/88963_Church-Guidance-Final-updated-4th-May-2020-Share.pdf)

COVID-19は教会も含めて社会に大きな影響を与えました。私たちは多くの感情と不安と戦っています。現状によって私たちは思い描いた将来が取り上げられ、喪失感でいっぱいです。特に若者や研修中の人たちはそう感じているでしょう。先が見えないと不安が募ります。ウイルスのせいで私たちは個人として、共同体として、国として悲しみ、恐怖、緊張を体験してきました。エレミヤも大変な時代を生きていましたがこう綴っています。「実に、わたしたちは滅び失せなかった。主のあわれみが尽きないからだ。それは朝ごとに新しい。」哀歌3：22～23 神のあわれみがあるからCOVID-19の先に希望があります。喪失感と将来への不安の中にながら、私たちは正しい質問をする必要があります。そうできれば答えを用意できるのです。

この資料は以下を目的とします：

1. 将来に関連する大事な質問をします。
2. パンデミックを霊的な観点から確認します。
3. 会衆のコミュニティをサポートするために教会と個人に実用的なガイダンスをに提供します。

## COVID-19パンデミックによって予想される直近の将来

神のご介入がなければ、今後1～2年、パンデミックの状況がどうなるのか誰にもわかりません。下記の事柄が今後起こると予想されます。

1. ロックダウンや活動制限令は徐々に緩和されています。
2. しかし、多くの人が集まる集会や会合は、宗教的な集会や旅行、祭日の集まりも含めて、今後6～9か月は制限されるでしょう。
3. 学校はすぐにではなくとも段階的に始まるでしょう。保育サービスはすでに許可されています。
4. ロックダウンの成果は、感染拡大をできるだけ抑える中で、対策を準備し、生活様式を変えるための時間をかせぐことです。
5. 下層階級コミュニティでの無症状の感染者によるCOVID-19の感染拡大が見られます。現在、マレーシア人の0.2～0.3%がCOVID-19の無症状感染者と見られています。
6. COVID-19の感染者は、一過性の流行性感染症と同時期に再び増加すると予想されています。従って、この新型コロナウイルスが徐々に消滅するまで、感染の波をコントロールする必要があります。ガードを緩めると、第2波は第1波を上回るかもしれません。
7. COVID-19パンデミックへの対応はまだ始まったばかりです。今後1年半～2年にかけて安全なワクチンが開発、生産、使用されるまで1～2年は、この状況が続くと予想されます。ワクチン開発などが遅ければ、更にこの状況が続くかもしれません。

上述の予想は楽観的といえるかもしれません。この危機は長期に及ぶ可能性もあります。

## COVID-19パンデミック：課題とチャンス

COVID-19パンデミックは、私たち皆にとって深刻な課題です。命への脅威となり、経済に大きな打撃を与えています。しかし、一方でチャンスとも考えられます。それは、このパンデミックが今までの私たちの生活、教会、地域コミュニティ、私たちが求めてきた方向性について深く考える機会となっているからです。不必要なことを捨て去り、キリストとの関係を邪魔するものを手放すよい機会となったといえます。私たち一人ひとりがキリストとの関係を深めるために、より深く内面を見つめる生活へと神が招いておられるのかもしれません。ここで私たちの生活における神のみわざを無視したり、軽んじたりするべきではありません。COVID-19パンデミックは人間の接触、密接を制限しています。神のご性質—緊密、親密、交わり—とは全く反するものに対し、神は扉を開けて下さるでしょう。

神が私たちを変えようとなさっているとすると、私たちはパンデミックが終わっても、変化した生活を維持していくことが大事でしょう。いったん脅威が去って、また以前の生活に戻ってしまうということがないように気を付けなくてはなりません。医療現場で「ステイタス クオ（現状）」という言葉が使われます。患者が「存在」し、安定した状態で、日々変化が見られない時に使用されます。霊的な観点からいうと、この状態はよいとはいえませんが、多くの人にとってはよくあることです。多くの人がイエスの救いを経験するけれども、主との関係を日々深めていく人たちは一部かもしれません。救い主、父なる神だけでなく、友なる主、愛する主との関係を一人ひとりが深めていくことが大切です。

神の教会は決して停滞していません。教会は聖霊によって導かれているので、いつもダイナミックです。信者のコミュニティは単なる集まり、物質的な建物以上のものです。これからも、教会の組織ではなく、人々の必要に目を向けていかななくてはなりません。

このパンデミックがどのように始まったのかわかりませんし、神がこれをなしたとは言いたくありません。どちらかといえば、このパンデミックは、長年の人間の地球破壊の故に引き起こされたのかもしれませんが、しかし、神が一人ひとりを変えて下さる時として、また教会やコミュニティの改革の時として、このパンデミックをとらえたいと思います。

パンデミックは多くの困難をもたらしました。しかし、祝福もあります。犯罪が減り、温暖化のスピードは緩やかになり、川はきれいになり、外に出てくる動物も鳥も増えています。自然自身による回復が見られます。

パンデミックは、私たちの根本を変えはしないことを心に留めておかななくてはなりません。私たちは神の子どもです。そして世の光、地の塩として、この現実の中で更に成長していかななくてはなりません。

このことが私に襲いかかることは、主のご計画ではなかったかもしれない。しかし、主はきっとこのことを許されたのだ。たとえ、敵の攻撃であろうと、それがやってくるまでに、主のお許しが出ているのだろう。故に全てよしなのだ。主は、私の人生の全てのことを益に働かせて下さるお方なのだから。CH Welch

# ミニストリーを取り巻く環境の変化と教会の対応

この項では、教会と主のみからだのためのニューノーマル（新しい日常）を考えながら、重要な疑問や問題について述べます。

下記事項を現実にそうであると仮定し、対策や行動を取ることが大原則です。

1. 周りの人々は全てCOVID-19陽性者とみなした対策を講じ、教会の感染拡大を防ぎます。
2. COVID-19に感染しても無症状の場合を認識し、他人に移さないように注意しましょう。
3. 高齢の両親、慢性疾患のある兄弟姉妹に移さないよう注意しなくてはなりません。

効率的にウィルスをコントロールするために、会衆（公衆）全体の協力、責任、行動の変化が求められます。一人ひとりが責任を持って行動していくことが大事です。感染者が減少したからといって、油断してはいけません。

更なる感染拡大の可能性がある中で、ミニストリーの新しい環境作りが必要です。

## 制限されるミニストリー

1. 教会同志の宣教者の講壇交換は中止
2. 家庭や病院を訪問しての礼拝は再考
3. 地方教会へのミニストリー（定期的訪問や支援）を再考
4. 活動制限令が緩和された場合、政府は集会の制限を発表するでしょう。集会の最大人数は50人か、100人か、200人か。それによって、規模の大きな教会は影響を受けると予想されます。礼拝人数の分割に留まらず、多くの小規模な教会が生まれる可能性があります。
5. 短期伝道旅行の当面の中止

現在の教会のシステムや構造は、長い期間にわたって構築されてきたことを認識する必要があります。教会のシステムは、よいアイデアや、人々の必要に応じて始まったものが慣習化され、構造化されてきました。私たちは従来教会の形に慣れすぎて、少し逸脱した形態のものを、それは教会ではないとか、異教だと感じてしまうことがあります。私たちは、今の教会のシステムや構造にとらわれすぎずに、生ける神に従って柔軟に対応していきたいものです。

ハイディ・キャンベル教授は、「ディスタント・チャーチ（距離の離れた教会）」という本を最近編集しました。この危機の中で多くの教会のリーダーや牧師たちの意見を照合した本です。この本の中で、キャンベル教授は、ロックダウンで引き起こされた教会の混乱状況において、3種類の方策が採られたと言っています。最も多かったのは、「移行策」で、従来の礼拝をライブストリーミングやビデオ録画にして、オンライン配信したものでした。この場合、牧師のメッセージなどに対して、会衆は家で受け身で見る側になります。2番目は、「混合策」です。これは、牧師のメッセージなどと、会衆がミーティングアプリでオンラインで礼拝に参加、お互いのやり取りもある混合です。3番目の「変換策」では、牧師は従来のやり方をしません。会衆は教会のオンライン配信中、または配信後に、SNSやメールで、率直な会話をリラックスしながら交わします。

パンデミックがもたらした一つの祝福は、教会をレンガやモルタルの建物から押し出して、信仰のコミュニティへと変化させていることでしょう。私たちは、バーチャルの信仰コミュニティの有益性に気付いたところです。そして私たちのコミュニティは、実際的なもの（肉、血のような）なのか、バーチャルなのかという視点に気付かせました。バーチャルのコミュニティは、私たちの本当のコミュニティのデジタルにおける延長線にすぎません。何故なら、私たちはお互いにキリストのみからだに属しているからです。

## A. 主のからだでい続けること

質問：私たちはどのようにキリストのからだでい続けることができるでしょうか？またコロナウイルスによって集まることができない中で、どのように集会を持てばよいでしょうか？

この質問は多くのリーダーや会衆の心の中にあるでしょう。礼拝のためにどのように集まれば良いでしょうか？どのように共に祈れるでしょうか？これまでの方法だと危険を伴う中、どのように交わりを持つことができるでしょうか？このパンデミックによって、一部の会員が教会から遠のき、信仰をなくしてしまうことが心配されます。

からだの一致を保つために交わりを可能にする方法を模索する中、特に高齢者を守ることを気遣う必要があります。また、慢性疾患を患っている子供や大人、60歳以上の方も含まれます。

「教会生活」を維持していくために様々な選択肢がありますが、それぞれの教会は、教会のある場所や経済状況によって、どの選択肢を選ぶべきか、そしてその可能性を検討する必要があります。選択肢を混ぜ合わせる必要もあるかもしれません。また、この危機が去った後にいくつかの「新たな」集いと交わりの方法が残り、成長しているかもしれません。いくつかの例を上げます。

### 1. 効果的なデジタルチャーチを設置

多くの教会は交わり、礼拝、祈り、からだの一致を可能にするデジタルを取り入れることに躊躇してきました。COVID-19によって、多くの教会は会衆を保つためにデジタルを取り入れざるを得なくなりました。しかし、それらの教会は一部の技術しか取り入れておらず、初期段階から効果的なプラットフォームに成長していません。多くの人はこの危機が早く去り、元の方法の集い方に戻れることを期待していました。

リーダーの一部は、デジタルを広く利用することによって、会員は他の会衆に移ってしまうか、いくつかの教会に参加してしまうことを恐れています。しかし、デジタルチャーチはすでに存在していて、もしかすると教会が今後探索していくべき未知の世界なのかもしれません。これをしない教会は、若者が会衆に加わりにくいと感じるかもしれません。デジタルチャーチは実際に集まる教会と何も変わりません。どちらも実体であり、どちらも課題はあります。

デジタル礼拝はまことの礼拝でなければなりません。「番組を見ている」であってはなりません。デジタル礼拝の質は大事ですが、個人を考えた礼拝はもっと大事です。一つの大きい教会が小規模教会に配信するのはやめた方が良いでしょう。個々の教会の牧会的ケアを阻みます。人に奉仕するプラットフォームを設置し、その人たちを他人とつなげ、対話を促すようにしましょう。どのからだでも、それぞれの関係が私たちをつなぎとめていて、デジタルチャーチの中心にあるべきです。イエスが中心におり、どの礼拝にも力を与えます。それが集う教会であっても、デジタルな教会であってもです。

「私たちの内容は大事だが、つながりは必須です。私たちは深い関係が育まれる場所を意図的に作らなければなりません。」 Zach Lambert

#### デジタルチャーチを設置することについてのポイント

- a. オンラインはライブ配信（もしくは録画）や、SNSグループやビデオチャットだけではありません。オーディオ（音声）も大事です。デジタルツールを広く試してみて、どれが会衆に一番合うか確認する必要があります。様々な会衆のために多様なデジタルツールが必要となるかもしれません。音声だけによる礼拝は忙しい人や高齢者に適していると思われず。
- b. ライブ配信でも録画されていても、これは神の御前での礼拝であり、数人がパフォーマンスをしているだけのものではないことを理解しなければなりません。これは、礼拝とエンタメ（映画やゲームやSNS）を同じ端末で見る人たちには特に重要なポイントです。
- c. 技術的に長けている人のノウハウを借りるのは大事です。若者にデジタルチャーチを設置してもらい、管理してもらうこともできます。また、ボランティアだけに頼るのではなく、フルタイムでこれを管理する人を雇う必要があるかもしれません。しかし、デジタルに精通している若者が教会の大きな役割を担う良い機会です。
- d. 多くの人たちは携帯を利用してデジタル礼拝に参加するでしょう。一部の人はパソコンやスマートテレビを使うでしょう。デジタルに精通していない人は設定に手助けが必要かもしれません。データ容量や回線速度なども問題になる可能性があります。
- e. 説教者や他の会員にコメントできる機能を用意すると良いです。
- f. メッセージと内容を視聴者に関連する内容にすべきです。フィードバックを得て、何をカバーすべきか聞き出すのも助けになります。オンラインで説教するのは集っている時の説教とは違うので、説教者はアドバイスが必要です。
- g. デジタルと実際の集まりを混ぜることも検討できます。例えば、野外で集まって大画面やそれぞれのデバイスで映像を共有することができます。
- h. スモールグループはビデオチャットやその他チャットアプリで行うことができます。
- i. 高齢者、寝たきり、障がい者、免疫不全、病気を患っている方など、教会に集えない人を覚える必要があります。実際に集っているときは、この方たちのケアは十分にできていませんでした。この方たちも参加できるような教会のあり方を考えることも大事でしょう。
- j. 人々の参加をどう促すかが一つの課題かもしれません。実は、デジタルチャーチは集う礼拝よりも参加を促すことができます。集う礼拝は質疑応答の機会がありません。しかし、デジタル礼拝は簡単な質疑応答を即時開催することができ、集うことができるようになったらこの措置を導入すべきかもしれません。
- k. 「ディスタンス（距離）を強いられた教会：オンライン教会で行ったことの振り返り」から：
  - i. オンライン「コーヒーショップ」を設置してチャットする機会。
  - ii. 「金曜夜に音楽を楽しむ」機会を作り、繋がって楽しむ。
  - iii. 「牧師とチャット」を設置して、牧会的ケアをする機会。他教会員がローテーション組んで行うこともできる。
  - iv. オンライン礼拝の一環として会衆が繋がりメッセージを交換する機会。

「オンラインを取り入れた多くの教会は今成長している。この新たな時代にデジタルチャーチを棚の奥に置いておくのは、とても大きな伝道の機会を無視していることになる。」 Carey Nieuwhof

オンライン礼拝をやったことがない教会のために「How-to テンプレート」を作成する必要があるかもしれません。始めるのに便利はサイトはこちら。

- i. Ryan Wakefield. The Ultimate Coronavirus Guide For Churches - How to quickly ramp up your digital ministry, digital services, and digital giving. Church Marketing University. Available here: <https://churchmarketinguniversity.com/the-ultimate-coronavirus-guide-for-churches/>
- ii. Victor Bous. How to begin streaming live church services. Available here: <https://reestream.io/blog/how-to-begin-streaming-live-church-services/>
- iii. How To Create A Digital Church For Those Who Can't Attend. ReachRight. Available here: <https://reachrightstudios.com/create-a-digital-church/>
- iv. Heidi A Campbell (Editor). The Distanced Church: Reflections on Doing Church Online. 2020 BY- NC-SA. Available here: <https://oaktrust.library.tamu.edu/handle/1969.1/187891>

全ての教会がデジタルに移行することはできません。田舎や貧しい場所にある教会は機器やネット環境が不足しているかもしれません。下記の「小規模教会をサポート」を参照。

従来の集う教会に戻るか、またはデジタル礼拝をしていくか、という選択肢の他に「オーガニック」（家の教会）な教会も一つの考えです。これをするには一点で全てを管理するのではなく（みことばの分かち合い、礼拝、祈り、など）、それぞれの家庭の中でリードできる人を指定します。自粛が緩和されていくにつれ、数家族で集まることも考えられます（毎回同じ家族同士に限定し、なるべく変えない）。教会はガイダンスを出し、毎週資料を提供します。例えば、バイブルスタディ資料や朗読箇所など。家の教会のリーダーは定期的にオンラインで集まり、教会のリーダーからガイダンスを受けます。献金や聖餐は各家庭で行うことができます。

## 2. 集う方法を変える：安全に集えるように工夫

都市教会で使用できるチェックリストはAppendix Cを参照。

活動制限令が緩和されていく中、教会で集うことが可能になり、少しずつ礼拝が再開されていきます。この時点で全ての集会を再開しないようにします。活動制限令解除後、すぐに集会を再開するのではなく、2～4週間ほどの時間をかけて集会の再開をプランする必要があります。教会内のいろいろな場所の映像を撮っておくと安全対策が立てやすくなります。

集会の再開を安全に行うためには：

### a. 集会の規模（人数）と頻度

頻度を増やし、少人数の集会を行っていくことによって、会衆それぞれの距離を保つことができます。安全と断言できる最適な規模はありません。主日礼拝は普段の30%規模に留めることを検討してください（礼拝を3回行う）。個々の礼拝に参加するメンバーは毎回固定にし、他グループと混ざらないようにします。規模が大きい教会は、日曜日だけでなく平日でも礼拝を行うことを検討した方がよいかもしれません。複数の礼拝を同じ場所で行うには、集会后に必ず換気と消毒を行う必要があります。

### b. 安全な距離を置く

各家族が1～2m離れるように座るよう心がけましょう。椅子を1m（できれば2m）離して設置します。家族は一緒に座っても問題ありません。椅子の配置場所は床に印をつけておきます。椅子が固定されているなら、座れる椅子と座れない椅子に印を付けます。座る場所は斜めに配置します（右の図を参照）。多くの教



会での座席方法（講壇に向いて座る方法）は聖書に書かれておらず、会衆を参加型から受領（受け身）型にしてしまうかもしれません。神は講壇にいるのではなく、私たちの心の中にいるのです。この機会に座席のレイアウトや会衆の配置場所を再検討しても良いかもしれません。昔ながらの集会は互いに向かい合って座っていました。

#### c. 空調は課題になります

エアコンは空気を循環させ、飛沫を拡散させる可能性があります。できればエアコンは切って換気をする（窓を開ける）ことをお勧めします。もしくは、野外集会も可能です。教会によってはこれが出来ない可能性があるため、部屋を事前に冷やすことも考えられます。野外礼拝や早朝礼拝も考えられます。一部の教会は駐車場で礼拝を行い、会衆はそれぞれの車で参加しています（エアコンなし、窓は開ける）。

#### d. 礼拝中での賛美は可能なのか？

大声で話したり歌うのは、飛沫を1～2m、もしくは4m拡散させる可能性があります。マスクをつけたまま歌うのも難しいです。ですから礼拝での賛美を考える必要があります。一つの可能性として、口ずさむ（口を開かずに音源をとる）ことができます。礼拝は賛美だけでなく、神に心を向けることです。歌うことよりも歌詞の内容を考える方がそれほど儀式のように感じないかもしれません。また、会衆として静かに神に思いを巡らす礼拝も一つの可能性です。

#### e. 高齢者に対してどのように安全性を高めることができるか？

高齢者を優先した集会を設けるべきです。教会によってはガラス越しの別室を用意することができるかもしれません。また、自宅でのオンライン礼拝を希望する人もいるかもしれません。それぞれの教会で重症化しやすい会員のリストを作り（60歳以上の方や基礎疾患を持っている方）、予防活動に役立てると良いでしょう。この方たちとは直接電話で連絡をとり、集会への参加希望を確認します。高齢者向けの集会を行うことも選択肢です。

#### f. 家からの参加

実際に教会に集う集会を再開しても、オンラインの集会も続ける必要があります。自宅待機を選択する人や、重症化の可能性がある人が利用できます。デジタルと実際の集会を同時に維持していく必要があります。

#### g. 録画かライブ配信

同じ日に複数の小規模集会を行っていくと、説教をする牧師に負担がかかります。ですから、一度会衆向けに説教をし（自宅待機の人にはライブ配信し）、その録画を残りの集会で流します。集会や説教は短くする必要があります。もし講壇が会衆に近いなら、プラスチックの防壁を作るか、説教者はマスクをする必要があります。

#### h. 献金を送金に

現金を献金するのは縮小していくべきです。現金には感染のリスクがあります。会衆には献金を準備し、送金することを勧めましょう。礼拝で献金したい人にはQRコードを用意し、スマホで献金できるようにします。最も安全でふさわしい送金方法を模索する必要があります。クリスチアンのオンライン献金システムも検討しましょう。デジタルに精通していない人に対してオンライン献金の設定を手伝う必要があります。

#### i. 聖餐

COVID-19の最中に聖餐を分かち合うのは難しく、リスクを伴います。安全な方法が確認できるまでは聖餐をとらないことを検討したほうが良いでしょう。聖餐を再開する場合は、最初は頻度を少なくすることを検討してください。同じコップから聖餐をとっている教会は、個別のコップに切り替えた方が良いでしょう。他教団の聖餐のとり方を調べて、最も安全な方法を模索する必要があります。聖餐パック（パンとカップがパッケージ化されているもの）を使用することも検討してみると良いでしょう。

### 3. 日曜学校のガイド

COVID-19を考慮した育児に関して次のURLを参照してください。日曜学校でも同じガイダンスが使用できます。

<http://www.necicmalaysia.org/newsmaster.cfm?&menuid=6&action=view&retrieveid=118>

多くの教会は子供向けの日曜学校を設けていますが、親が子供に主の道を教えることが本来あるべき形であり、教会に任せっきりではいけません。子供を霊的に導くのは難しく、多くの人は教会にこの大役を任せたくなくなります。キリストをまだ知らない家庭の子供が、日曜学校を通してキリストと出会うことはあるかもしれませんが、しかし、クリスチャンの親は、この機会を通して子供に対する霊的な役割を再確認すべきです。教会は親をサポートするための資料などを準備する必要があります。

### 4. 実施すべき予防対策

- a. 全スタッフ（清掃作業員や警備員も）と会衆にCOVID-19予防対策のトレーニングを行うべきです。定期的に（最初は隔週、後に月次）トレーニングを実施するようにしましょう。ガイドラインを作成、貼り、常に可視化できるようにしましょう。
- b. トレーニングのポイントは、距離を保つこと、顔を触らないこと、マスクをすること、密接な状態を作らないこと、人に触れることや話すことを避ける、手を洗うこと、消毒を行うことです。
- c. 当分は教会ではマスクをしましょう。教会に到着したときにマスクをし、教会にいるとき、また帰るまでマスクをとらないようにしましょう。
- d. 全ての人の体温を測定しましょう。体に触れない温度計を使い、37.5 C 以上ある人は自宅待機するよう促しましょう。
- e. 教会に入室、退室する際に消毒できるよう消毒液を準備しましょう。
- f. グループで話をしたり、廊下や入口で立ち止まって会話することを控えます。必要以外の会話を避けるべきです。
- g. 教会内での食事はやめましょう。
- h. 握手、ハグ、などのように人に触れることはやめましょう。
- i. トイレにはコロナウイルスの感染リスクがあります。教会に来る前にトイレを済ませておくよう勧めます。トイレ使用後はふたを閉めてトイレを流すように促しましょう。蛇口が手で触れる必要のないものに変更することを検討しましょう。トイレには十分な石鹼があるようにしておきましょう。触れずに石鹼が出る機械を用意するのが理想的です。乾燥機は感染を広める恐れがあるので使うのをやめましょう。
- j. 手袋の使用は安全という錯覚を与えるので、使用するのをやめましょう。手袋を使用すると多くの場所に触れ、他人にリスクを与えます。手袋は清掃の時のみに使用しましょう。
- k. 教会とトイレの入口に、手で触れる必要のない（もしくは足で踏んで空ける）ふた付きのゴミ箱を用意しましょう。
- l. 渡航禁止令が解除されてから渡航するメンバーに対して、2週間教会に来ないことを勧めます。スタッフには14日間の特別有休を与えましょう。
- m. COVID-19感染が疑われるなど緊急の場合は、政府の指示に従い、しかるべき対応をとりましょう。

### 5. 清掃作業

- a. 従業員全員分の消毒液を用意しておき、トイレには十分な石鹼を用意しましょう。



- b. 使い捨て手袋とプラスチックの袋を用意し、（嘔吐などの）体液流出の場合の緊急対応に備えましょう。
- c. 集会前に教会の床を清掃しましょう。
- d. 消毒に使用可能な薬剤はAppendix Bを参照。
- e. 集会と集会の間で椅子を消毒しましょう。プラスチック製の椅子を購入し、使用者それぞれが消毒できるようにもできます。
- f. 消毒する必要を避けるため、教会の共通利用域からは「不必要な備品」は取り除きましょう（書物や共通利用する備品などを含む）。貼りだしものは最小限必要な健康に関するメッセージのみに留めましょう。

## 6. 事務所、会議、研修

- a. 事務所は在宅勤務などに切り替えることを検討しましょう。各教会で、毎日在宅勤務が可能か一部在宅なのかを判断しましょう。
  - b. 事務所では1-2mの間隔を保てるように設置しましょう。透明なボードを使用してワークスペースを区切るとなお良いです。ただし、空調設備は空気を循環させるのでリスクを伴います。
  - c. スタッフと来訪者がどのように対面するか考えましょう（特にキッチン、トイレ、パソコン室、図書室、資料室などの共通利用域）。
  - d. スタッフの定期的な健康観察を行いましょう。毎日口頭で健康観察を行い（特に呼吸器症状を確認）、入室と退室時の検温を行いましょう。肌に触れる必要のない温度計を使いましょう。体調の悪いスタッフ（咳や鼻水などの呼吸器症状）は自宅待機を促しましょう。
  - e. 不必要な対面での会議は避けましょう。リモート会議やメールを活用しましょう。
  - f. 可能な限りオンライン研修を行いましょう。オンラインでできない必須研修は、参加者を1m間隔で座らせて行きましょう。ビュッフェ形式の食事ではなく、各自弁当を用意しましょう。
- 事務所設計についてはこちらのリンクを参照：
- [https://codeblue.galencentre.org/2020/04/28/are-you-and-your-office-ready-to-get-back-post-mco-dr-amar-singh-hss/?utm\\_source=rss&utm\\_medium=rss&utm\\_campaign=are-you-and-your-office-ready-to-get-back-post-mco-dr-amar-singh-hss](https://codeblue.galencentre.org/2020/04/28/are-you-and-your-office-ready-to-get-back-post-mco-dr-amar-singh-hss/?utm_source=rss&utm_medium=rss&utm_campaign=are-you-and-your-office-ready-to-get-back-post-mco-dr-amar-singh-hss)
- g. 事務所環境の再設計についてチェックリストはAppendix E参照。

## B. 会衆が個人として霊的に成長することをサポート

質問：一人ひとりが神との関係を成長させるためにどのようにサポートできますか？

牧会的ケアは今後、聖職者でない人たちが担うようになっていくでしょう。責任が与えられた人はそれぞれ小グループをケアしていきます。家の教会が今後の教会の焦点となるでしょう。教会の戦略としては、会衆のそれぞれの生活の場で教会生活を続けられるように（神を礼拝し、互いを立て上げ、伝道する）備えることです。また教会は親を訓練して家で弟子づくりができるようにすべきです（夫婦間、親子、祖父母から孫）。個人を訪問することが「新たな教会のありかた」の一部となるでしょう（同じ人同士が接触することに限る）。牧師の役割も従来のリーダーシップからファシリテーターとなり、リーダーを訓練する役割となっていきます。牧師のメッセージを通して、どのようにそれぞれが励ましあうことができるかを話し合えます。

日曜日に集うことや、祈禱会やバイブルスタディやスモールグループは長期間にわたって行うのが難しくなるでしょう。ですから、個人の信仰を成長させることに焦点を当てるのが大事になります。個人がイエスとの関係を成長させることができることを侮ってはいけません。この機会を使って、日曜日を中心とした教会のあ

り方から個人の毎日の信仰生活にシフトしていくことが考えられます。信者が教会に来て受ける側の人間でいるのではなく、一人ひとりが神を求めて行くようになるべきです。私たちはガイダンスと資料を提供します。

最も大事にすべきは父なる神と深い関係をもつことです。会衆が静かに神から聞くように促していくのが効果的です。個人的な霊的形成、イエス・キリストのようになるために作り変えられていくプロセスには、様々な形があります。信者が成長するために考慮すべきいくつかの点は以下の通りです。

1. 考える・聞く祈り（心の祈りともいう）－静かに霊を通して神に聞く
2. 声を出して祈り、礼拝する一声を出して神を礼拝し、必要を神に願う
3. バイブルスタディー神の御言葉をしっかり読んで学ぶ
4. 御言葉を瞑想する（Lectio Divina, 聖なる読書ともいう）－御言葉を聞いて神に動かされる
5. 日記を書く（祈りの日記ともいう）－神との関係を記録し、見極めたり、自分を知り、神を深く知ることになる
6. 断食一食事、メディアからの情報入手、電化製品の使用に制限をかけ、神の臨在と声を理解する
7. 瞑想しながら散歩をしたり、地域に貢献したり、霊的書物を読んだり、神の臨在を感じることを意識したりすることも考えられる。

霊的形成を助ける資料は教団やオンラインで多くあります。一部の神学校も遠距離での研修を開催しています。Seminari Theoloji Malaysia (STM), Malaysian Bible Seminary (MBS), Malaysian Baptist Theological Seminary (MBTS)などのホームページを参照してください。一部では多言語でオンライン授業を提供しています。

クリスチャン教育と弟子づくりの違いを理解する必要があります。一方は知識を得ることで、もう一方はコミットすることと変革です。私たちに与えられた命令はイエスの弟子を作ることです。これを行うことによって自動的に生き生きとして有意義なキリストの体ができしていきます。また、「キリスト者になって教会に行く」ことと、イエスが伝えていた神の御国では違いがあります。神の御国がイエスが最も大事にしていたことで、私たちも大事にすべきです。

## C. 牧師、教会スタッフとその家族、及び小規模教会をサポート

質問：どのように率先して牧師や教会スタッフ、また小規模教会をサポートすることができるでしょうか？

この時期、教会スタッフをなくすことや教会を閉会させないことを気遣いましょう。これらは起こりうる事です。会衆から教会への献金が減少する可能性があり、教会は牧師や教会スタッフの給料を減らす傾向にあるかもしれません。特に小規模教会はそうなりがちです。

教会でフルタイム、もしくはパートタイムで働いている人たちは今特にサポートが必要です。教会で集うことが出来なくても、彼らの給料が引き続き支給されるようにしなければなりません。彼らは、世の中で働いている私たちのようには蓄えがないかもしれません。彼らが長期的にこの危機をしのげるように、特に彼らの子供の教育のためにサポートする必要があります。

小規模教会は財源が限られているため、小規模の会衆や田舎にある群れは閉会の危険性があります。

私たちはいくつかの対策を打つことができます。

1. 会衆と教会マネージメントは、引き続き牧師とフルタイム及びパートタイムのスタッフやその家族をサポートすべきです。金銭的必要を満たすだけでなく、子供の教育においてもサポートすべきです。
2. 大きな、経済的に潤っている教会は閉会のリスクにある小規模教会をサポートすることを検討すべきです。これは教団の枠を超えて、キリストの体を助けることを考えるべきです。
3. 全国で経済的困難にある教会のデータベースを作り、教会及びそのスタッフがサポートできる教会と繋がるようにすると良いです。
4. 経済的に潤っている教会はデジタル集会を設置し、田舎の教会が使用できるようにできます。機材を使うようにしたり、スキルのある若者を派遣して設置を助けたり、長期的に経済的支援をすることが考えられます。
5. 教会員の中で経済的困難にある人たち（失業し、生計を立てることができない）を見出し、必要に応じたサポートをする必要がありそうです。

「教会が教会を助ける、ということは、潤っている教会が人や資産を用いて助けが必要な教会を自分の教会のように扱うということです。助けられた教会は助けた教会の枝教会となります。もう一つの形は、潤っている教会が助けが必要な教会を期間を設けて支援します（一年未満）。後者の方は枝教会の形に変わるかもしれないし、変わらないかもしれません。」 Thom S. Rainer

# Appendix A: 保健所やその他重要連絡先

日本の事情とは異なるので割愛します。

# Appendix B: コロナウイルスを消毒のための手段

日本の事情とは異なるので割愛します。

# Appendix C: より安全に教会で集うための工夫

都市教会でのチェックリスト

	分野	提案	実行プラン（適応する）
1.	プランの準備	<ul style="list-style-type: none"><li>・集会の再開を検討し、それについて教会リーダーから通達を準備する。</li><li>・緊急事態宣言が解除されても、2～4週間は集会を再開しないで、再開の準備・段取りをする。</li><li>・教会の建物内の写真、またはビデオを撮って、再開に向けて準備する。</li></ul>	
2.	集会の規模・頻度	<ul style="list-style-type: none"><li>・安全だと断言できる最適な規模はない</li><li>・できるだけ頻度を増やし、少人数での集会をめざす。例えば、通常集会の3割の規模にする（集会を3回にする）</li><li>・個々の礼拝に参加するメンバーは毎回固定にする</li><li>・規模の大きい教会は必要に応じて、1週間を通して複数の集会をすることを検討する。</li></ul>	
3.	安全に距離をおく	<ul style="list-style-type: none"><li>・それぞれの家族を最低でも1～2mの間隔を空けて座る。</li><li>・すべての椅子の間隔を最低でも1m、できれば2mあける。</li><li>・床に椅子を置く目印のテープなどを貼る。</li><li>・固定されている、または連結されている椅子については、使用するものと使用しないものに分ける。斜め前後に座ることですらに距離を置くことができる。</li></ul>	
4.	エアコン・空調	<ul style="list-style-type: none"><li>・エアコンは空気を循環させて、飛沫を建物内に拡散する可能性がある。</li><li>・空調を使用しないで、建物の窓を開けて換気する。</li><li>・窓が開かない場合は、事前に部屋を冷やし、最低風速で空調を使用するなどの工夫をする。</li><li>・野外集会や早朝集会を検討する。</li><li>・教会によっては、屋外駐車場で集会を実施し、参加者は車のなかで礼拝する。（エンジンを切って、窓を開けるなど。）</li></ul>	
5.	礼拝中の賛美	<ul style="list-style-type: none"><li>・会話や歌は1～2m(場合によっては4m) 範囲で飛沫を飛ばしてしまう。しかし、マスク着用の賛美は苦しい。</li><li>・礼拝で声を出して歌わないことを検討する。黙想、無声礼拝、または鼻歌礼拝等工夫する。</li></ul>	
6.	弱い者や高齢者への防護を強化	<ul style="list-style-type: none"><li>・体の弱い者や高齢者への優先礼拝を設ける。</li><li>・可能な場合は別室でガラス越しでの礼拝をさせる。</li><li>・自宅でネット配信礼拝の選択を与える。</li><li>・体の弱いメンバーのリストを作成する。(60歳以上または基礎疾患がある人) どのような形で礼拝を希望するか電話で確認する。</li></ul>	

7.	自宅という選択肢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集会を再開しても、体の弱い人や、自宅に残ることを選択する人達のためにネット配信を続ける。</li> <li>・物理的に集う礼拝とネット配信礼拝を同時進行する。</li> </ul>	
8.	説教	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模で頻度を増やして礼拝することによって、一日に何回も説教する牧師が疲弊する恐れがある。</li> <li>・説教は最初の礼拝のみ(自宅にいる人達はライブ配信)にし、残りの礼拝は録画を利用するなどの工夫をする。</li> <li>・礼拝や説教は短縮する。</li> <li>・教団が会衆に近い場合は、透明なシールドを貼るなどの工夫をする。または、牧師がフェイスシールドをつけるなど。</li> </ul>	
9.	電子決済による献金	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現金による集金は感染拡大の危険があるので、廃止すべき。</li> <li>・会衆に計画的に捧げることと、送金による献金を勧める。</li> <li>・毎週その場で捧げたい人には携帯によるQRコード決済を利用する。</li> <li>・より良い、安全な電子決済の方法を検討する必要がある。</li> <li>・電子決済やデジタル環境に不慣れな人をサポートする。</li> </ul>	
10.	聖餐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の聖餐のやり方だと感染拡大の危険がある。</li> <li>・安全な聖餐の進め方が確立するまで聖餐を行わない。</li> <li>・聖餐を再開するときは、まず不定期で行う。</li> <li>・盃を共用していた教会は、個別の盃を使用する。</li> <li>・他教団(例：カトリック等)の聖餐の方法を調べ、より安全なやり方を検討する。</li> </ul>	
11.	教会学校(日曜学校)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以下の子育てセンターのガイドラインを参考にする。 <a href="http://www.necicmalaysia.org/newsmaster.cfm?&amp;menuid=6&amp;action=view&amp;retrieveid=118">http://www.necicmalaysia.org/newsmaster.cfm?&amp;menuid=6&amp;action=view&amp;retrieveid=118</a></li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全予防のための重要な手段</li> </ul>		
12.	スタッフと会衆の訓練	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会衆と全スタッフにコロナ感染予防についての訓練をする。</li> <li>・定期的に訓練を実施する。(最初は隔週。その後月一回にする。)</li> <li>・目立つ場所にガイドラインを貼り可視化する。</li> <li>・訓練の重点：安全な距離の取り方、顔を触れない、マスクの着用、密接を避ける、会話するときはボディータッチを避ける、手を常に清潔にする、机などの表面を常に清潔にする。</li> </ul>	
13.	マスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会衆、スタッフを含むすべての人は建物に入る前からマスクを着用する。</li> </ul>	
14.	教会に入る前に検温	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフを含め、入口で全員に検温する。</li> <li>・非接触式の体温計を使用する。</li> <li>・37.5度以上の人は建物に入らないで帰宅させる。</li> </ul>	
15.	アルコール除菌液	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教会の出入口にアルコール除菌スプレーを設置する。</li> </ul>	
16.	交流や会話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの交流をしないよう気を付ける。</li> <li>・廊下や共用スペースでの立ち話をしない。</li> <li>・必要以上に会話しないことを促す。</li> </ul>	
17.	食事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教会での食事を極力避ける。</li> </ul>	
18.	人との接触	<ul style="list-style-type: none"> <li>・握手、ハグなどの接触をしない。</li> </ul>	
19.	トイレ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレは感染拡大のリスクの高い場所。</li> <li>・教会に来る前に自宅でトイレを済ませよう勧めることで教会のトイレ使用を極力減らすことができる。</li> <li>・飛び散りを防ぐためにトイレの後は便器の蓋を閉じる。</li> <li>・蛇口を自動のものに取り替えるか、肘で作動できるように</li> </ul>	

		<p>するなど感染リスクを減らす工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべてのトイレに十分な石鹸を設置する。</li> <li>・手で稼働するソープディスペンサーが理想。</li> <li>・ドライヤーの使用は感染拡大のリスクがあるので使用しない。</li> </ul>	
20.	手袋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手袋の使用は安全だという錯覚を与えるため、使用しないことを勧める。</li> <li>・使い捨て手袋は清掃作業のときのみを使用し、使用後は廃棄する。</li> </ul>	
21.	ゴミ箱	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教会やトイレの出入口にカバーをかけた足稼働のゴミ箱を設置する。</li> </ul>	
22.	海外渡航するメンバー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・渡航禁止令が解除されてから渡航するメンバーに対して、2週間教会に来ないことを勧める。</li> <li>・強制帰国したスタッフには2週間の有給を与え、自宅隔離をする。</li> </ul>	
23.	コロナ緊急連絡先	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の保健所やコロナに関する相談窓口の連絡先を提供する。</li> </ul>	
24.	新たな定期清掃のやり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時に体液などを清掃するための使い捨て手袋やビニール袋を準備する。</li> <li>・教会の床は礼拝前(礼拝の間)と一日の終わりに清掃する。</li> <li>・コロナウイルスに有効な除菌液はAppendix Bを参照。</li> <li>・礼拝の間に椅子の清掃をする。使用後に消毒しやすいプラスチック製の椅子に投資する。</li> <li>・教会の共用スペースにある使用しないものをなくすことで消毒するものを減らす。(書物など)</li> <li>・健康に関する重要な情報は掲示板に貼る。</li> </ul>	

## Appendix D: 田舎の集会と先住民の教会

礼拝を工夫するためのチェックリスト

日本の事情とは異なるので割愛します。

## Appendix E: 教会事務所環境の再構築

事務所の再開に向けて、考慮すべきチェックリスト：

1.	公共交通機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・密閉空間になっているバスや電車は感染のリスクが高い。</li> <li>・マスクを着用し、顔を触らないよう注意する。可能ならば乗客と距離を置く。座席や手すりなどを触らないようにし、登降の際は手を消毒する。</li> <li>・可能なら窓を開けて換気する。</li> <li>・車の相乗りをする。いつも同じメンバーで相乗りする。</li> </ul>	
2.	スタッフの感染リスクを減らすための業務基準を設ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての事務所に業務基準のチェックリストを作成する。</li> <li>・全てのスタッフにコピーを渡す。</li> <li>・清掃員と警備員も含めて、全てのスタッフのトレーニングをする。(電話やビデオ電話と通して)</li> </ul>	

3.	事務所に出入りする人数を制限する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模教会に適用する。</li> <li>・大人数の出入りを制限する。時間をずらしたり、出入口を複数にするなど工夫する。</li> <li>・ドアを足で開閉できるようにする、また自動ドアにするなど工夫する。</li> </ul>	
4.	密を避けるために出勤時間をずらしたり、テレワークをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務時間をずらしたり、短縮することを検討する。</li> <li>・午前(8am-12noon)午後(1-5pm)のシフト制にする。</li> <li>・または隔日の分散出勤にする。</li> <li>・自宅勤務のための方針や勤務時間に関するガイドラインが必要。</li> </ul>	
5.	エレベーターのある建物について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エレベーターは密室のため、感染リスクが高い。</li> <li>・可能な限り階段を使用する。エレベーターを利用する場合は搭乗者全員違う方向に向き、マスクの着用、人数制限等工夫する。</li> <li>・エレベーター内での立ち位置を床に印付けする。</li> <li>・エレベーターの外には1m間隔に並ぶ列の仕切りをする。</li> </ul>	
6.	事務所の空調	<ul style="list-style-type: none"> <li>・密閉空間が多い事務所での改良は難しい。</li> <li>・窓を開けて換気したり、空調を調整して対応する。</li> <li>・高機能の空気洗浄機を使用する。</li> </ul>	
7.	オープンオフィススタイルの改良	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンオフィススタイル(仕切りなく好きな場所で仕事できるスタイル)は感染リスクが高い。</li> <li>・同時に出勤する人数を減らす。または仕切りを作る。</li> <li>・お互いに1-2mの距離をとる。</li> <li>・床にそれぞれの個人空間のマーキングをし、侵入しないようにする。</li> <li>・机やスペースの共有などを避ける。</li> <li>・ネットで事務所の間取り図やデザインをみて事務所の環境を改良する。("Six Feet Office"という新しいコンセプトを参考する)</li> </ul>	
8.	会議の改良	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に部屋に大人数でいると会議は感染リスクが高い。</li> <li>・同じ建物内でも、できるだけ電子媒体を利用して会議をする。</li> <li>・対面での会議を極力避けて、ビデオ会議を利用する。</li> </ul>	
9.	共用品からの感染回避	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務用品の共用を避ける。</li> <li>・複数人でのコピー機やプリンターの使用を避ける。</li> </ul>	
10.	給湯室、祈祷室、スタッフの共用スペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それらの場所は感染リスクが高いため、避けるべき。</li> <li>・スタッフは弁当を持参して自分の席で食べるべき。</li> <li>・共用のコーヒーマーカーの使用に気を付ける。または控える。</li> <li>・それぞれの祈りの時間をずらす。または自分のワークスペースで祈る。</li> </ul>	
11.	安全なマスクの使用。マスクの交換。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マスクの着用は自分の飛沫から他人(お互い)を守るため。</li> <li>・無症状が多数いる中で誰が感染しているかわからない。</li> <li>・マスクによって機能が違う。N95や三層のサージカルマスクは医療従事者にとっておくべき。</li> <li>・布マスクを使用する場合は交換用に2枚持参する。午前間に1枚つけて、昼食の時にマスクをビニール袋に入れ、手洗いを徹底してから昼食ととる。昼食後にまた手洗いをしてから清潔な2枚目の布マスクをつける。</li> <li>・清掃員と警備員にもマスクが十分提供されていることを確認する。</li> </ul>	
12.	スタッフ同士の交流の制限	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフ同士での交流を避ける。特に出勤時、昼食時、と退社時。</li> <li>・業務上に必要な会話以外を控える。</li> </ul>	

13.	トイレの使い方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレは接触感染のリスクが高く、換気が悪いことが多い。</li> <li>・トイレのドア(両側)に感染リスクを最小限にする使い方のガイドラインを貼る。</li> <li>・足稼働のソープディスペンサーやドアが理想。</li> <li>・蛇口を自動のものと取り替えるか、肘で作動できるようにするなど感染リスクを減らす工夫をする。</li> <li>・飛び散りを防ぐためにトイレの後は便器の蓋を閉じる。</li> <li>・トイレを利用する人は出入りする際にドアノブの消毒をする。</li> <li>・トイレの外に蛇口を閉める際に使用したティッシュ等を捨てるためのゴミ箱を設置する。(全てのゴミ箱は足で蓋の開閉ができるものにする)</li> <li>・ドライヤーの使用は感染拡大のリスクがあるので使用しない。</li> </ul>	
14.	新たな定期清掃のやり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共用スペースにあるドアノブ、エレベーターのボタン、シンクの蛇口、手すり、スイッチ、カウンター等を頻繁に消毒する。</li> <li>・最低でも一日一回は床掃除する。</li> <li>・清掃・消毒の際にはビニール手袋を着用する。希釈した漂白剤(1:100の比率。例:10mlの漂白剤に対して100mlの水)またはアルコール60-70%以上のものを使用する。</li> <li>・安全性を損なわないように夜間にUVライトでの消毒の可能性を検討する。(病院で実施しているもの)</li> <li>・1-2人にトイレトーパー、石鹸、ペーパータオル、アルコール入り消毒液等の在庫管理をさせる。</li> </ul>	
15.	手袋の最適な使い方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使い捨て手袋は清掃の時のみに着用し、使用後は廃棄する。</li> <li>・手袋の使用は安全だという錯覚を与え、他人に感染させるリスクが高くなるため、スタッフや警備員は手袋を使用しないことを勧める。</li> </ul>	
16.	体調不良の場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体調不良の場合(熱、咳や鼻水などの呼吸器症状)は出社しないで、地元の保健所や医療機関に連絡する。その場合有給とする。</li> <li>・海外から帰国したスタッフに関しては2週間の自宅隔離をする。その場合は有給とする。</li> <li>・勤務中に体調不良になった場合のプランを作成する。</li> </ul>	
17.	カンファレンスなどの出張や施設訪問等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数か月の間は国内であっても、カンファレンスや施設の訪問を延期するべき。</li> <li>・飛行機での移動は感染リスクが高い。</li> <li>・教会間や事務所間の会議は電子媒体等を利用する。</li> </ul>	
18.	家族への感染を最小限にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帰宅の際は家族との接触を控え、ものに触れないようにする。</li> <li>・服は洗剤に漬け、すぐにシャワーをあびる。</li> </ul>	